

立命館大学建設会

発行所
立命館大学建設会事務局
〒525-8577
滋賀県草津市野路東1-1-1
立命館大学理工学部
環境都市系事務室内
平成 29 年 8 月

第31号

会長挨拶

建設会会長

桑山 忠

昭和三十九年卒



昨年度の建設会総会におきまして会長に就任致しました桑山です。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。建設会会員の皆様方におかれましては、平素より建設会の活動にご支援、ご協力を賜り、心より御礼申し上げます。

員の皆様の大変なご努力や学系の先生方のご尽力に改めて敬意を表したいと存じます。特に三月に開催されました環境都市系三学科の卒業記念パーティでは、夢と希望に満ち溢れた若い後輩の皆さんを拝見し、およそ五十年前の卒業式の頃を懐かしく思い出しております。祝辞では、立命館の卒業生であるという誇りを忘れず健康に留意して仕事に取り組んで欲しい

との話をさせて頂きました。さて、甚大な被害をもたらした東日本大震災から六年が経過しましたが、その後も、地球温暖化が原因と思われる集中豪雨による河川氾濫や土砂災害、そして、最近では地震も頻発するなど、わが国における自然災害からの復旧と防災の取組は喫緊の課題となっております。振り返りますと、東日本大震災の発生しました二〇一一年九月には紀伊半島大水害、二〇一二年には九州北部豪雨、二〇一三年には伊豆大島土石流災害、二〇一四年には広島土石流災害、二〇一五年には関東東北豪雨災害、二〇一六年には熊本地震および東北北海道豪雨災害、そしてこの七月の九州北部災害です。これでもかという位毎年大規模な自然災害が発生しております、数年間の災害

の歴史を思い返すことすら難しくなりつつあります。自然災害で大変な被害を受けた各地の復旧や防災工事には、国・地方自治体・建設業界等に携わる多くの土木・建築技術者が最前線で取り組んでおります。また、自然災害によりダメージを受けた生態系や生活環境の復旧のために多くの環境系技術者が活躍しております。一般に自然災害により被災した地域の環境は劣悪であることが多いわけですが、技術者のみならず多くのボランティアの方々がこうした劣悪な環境に負けることなく黙々と作業しておられることに心から敬意を表したいと思います。このような方々を手本として、本学系の卒業生の皆さんが華美に流れず、誠実に社会基盤の維持、改善、発展に向けて、

それぞれの仕事の舞台で活躍されることを心から希望しております。今年には環境都市系の前身となる立命館高等工科大学の土木科が誕生して七十九年になり、来年は八十年の節目の年を迎えることとなります。八十年を迎えるにあたり建設会各支部とは勿論のこと、学系の先生方ともしっかりと連携を図りながら、若い卒業生から先輩まで、世代を越えた多くの卒業生が参加して頂ける建設会を目指して取組を進めて参りますので、皆様方のご支援、ご協力を重ねてお願ひ申し上げます。

最後に、建設会会員の皆様方の益々のご健勝・ご活躍を心より祈念申し上げます。ご挨拶とさせていただきます。

学系の動向・改革について

環境都市学系 学系長

持田 泰秀



僭越ながら二〇一七年度の学系長を任せて頂いております建築都市デザイン学科の持田で御座います。本年度の建設会の一層の発展のために微力ながら力を尽くす所存です。よろしくお願ひ致します。

二〇一七年度の学系教員の移動につきまして、都市システム工学科助教の林倫子先生、環境システム工学科教授の中島淳先生が二〇一七年三月をもって退職されました。二〇一七年四月より、都市システム工学科では、小林泰三先生が教授に、藤本将光先生が准教授に就任され、環境システム工学科では、惣田訓先生が教授に、横山隆明先生が(二〇一六年九月より)講師に、清水聡行先生が特任

助教に就任され、建築都市デザイン学科では、李明香先生が准教授に、山田悟史先生が講師に、藤井健史先生が助教に就任されました。現在、来年、二〇一八年度より、環境・防災・都市形成といった分野において活躍できる人材育成を図るための体制を整え、更なる発展のための、学系内の組織体制などの改革の準備を進めております。これまでも、多くの方から情報発信がなされておりますが、改めてここで御説明致します。「環境都市学系」から「都市システム学系」に名称の変更、「都市システム工学科」と「環境システム工学科」の二つの学科が「環境都市工学科」の二つの学科となります。結果、都市システム学系は「環境都市工学科」と「建築都市デザイン学科」の二つの学科体制となります。

二〇一八年度の学系学部の全定員は本年と変わらず、環境都市工学科が昨年の二つの学科定員を合計した九十一名+七十五名=百六十六名、建築都市デザイン学科が本年同様の九十一名であります。大学院博士前期課程環境都市専攻の定員は本年八十名から、百二十名に定員増加します。大学院博士後期課程環境都市専攻の定員は十五名ですが、進学する学生数は相変わらず伸び悩んでおり、学生数増加への今後の取組みが課題となっております。

学系学生の学修の際はBKCキャンパスのトリシアにて、豊かで充実した研究活動を継続して行っております。近々の課題として、学生数に見合った教員数の確保、その中ではダイバシティから女性教員の活用推進、同時にその学修のためのスペースの確保が上げられます。BKCキャンパスは十分に広いキャンパスではありますが、教学研究施設については、限られた執務空間をより有効に活用する事が求められており、今後、トリシアに集約した教学研究活動に限界が生じそうです。学系内の一部の学生や教員が、他の建物で日常的に活動せざるを得ない状況です。

最後に、今後の学生や卒業生にとって、諸先輩の応援して下さい。トリシアが、衣笠と同じ様に生涯に残る大切な学生活動のホームグラウンドとなる様に努めて参ります。世代を問わず、建設会の皆様方が母校を誇れるように、教職員と学生一体となって精一杯努力して参りますので、今後とも変わらぬご支援をよろしくお願い致します。

会員の声

回顧建設会第一期生



建立会々員
北村醸司
昭和二十七年卒

私が理工学部土木工学科(現在都市システム工学科)を卒業したのは昭和二十七年、第二次世界戦争の敗戦に当たりGHQ(米国が任命した占領下日本の統括指揮官)の指示で新制学校制度が施行されました。いま話題になっている象徴天皇のご公務もこの時に制定されたのです。立命館は旧制専門学校理工学部を新制に移行するため全国の新制大学にさきがけて昭和二十七年に新制大学第一期生が誕生したのです。私は昭和二十五年に旧制専門学校理工学部数学科を卒業したのですが就職できず先輩の勧めもあり土木工学科に編入しました。新制度は所定の単位を取れば卒業できるので同時に定時制(夜学)も通い二年で卒業できました。学資は昭和二十一年の引揚者なので日本育英会の資金を無利子、二十五年返済の条件で総額二万五千二百円を借り、借金は年額千八円の八年目に母が一括返済してくれました。因みに当時の物価は為替レート一ドル三百六十円、日当二百四十円(ニコヨン)、はがき一銭五厘、入学金百円です。学舎(写真)は等持院北町、今の啓明館の位置でしょうか。なるべく通学費を節約するため伏見中



書島駅から北野天神前まで市電に乗り、あとは二十分ほど徒歩で登校しました。教室から池越しに金閣寺がみえる景勝地です。昭和二十六年には東側にグラウンドを建設することになり故畠山先生のご指導をうけて数人の学友と共に測量や地質調査を実施しました。必要な計測機器を京都大学に借りに行ったところ「借用書ぐらいはもつてこい」と叱られた記憶があります。また故有光先生は白梅町の自宅に五人打ち麻雀を誘われます。手待ちの生徒に試験の答案用紙を「扇風機に飛ばしてくれ」「何故ですか」と尋ねると「記述の少ない答案は近くに落ちる」(冗談)とのことでした。故田口先生の構造力学は原本「等角撓度法」が手に入らずそのガリ版(謄写版コピー)をもらうため満席でした。多くは出席簿押印を済ましてすぐ近くの映画撮影所に行きエキストラ代を稼いでいました。授業はただひたすら講義を聴くだけの古典的なものです。同期の卒業生は四十二名、当時は相変わらずの超水河期で就職は困難でした。私は先生の紹介で建設省の事務所に今のバイトの形で就職できました。この機会を失う

と収入源が無くなるので木下藤吉郎の草履取り宜しく、この職場では私がないと業務執行が差し支えるような重要業務を担当しようと思いましたが、一般に新入生は青焼き(図面のコピー)や複写(原稿のカーボン・コピー)等を命じられるのですが、幸いに理解のある上司に恵まれダムサイトの地形測量や高水流量改定などの仕事を頂戴しました。会報には建設会皆様の国際的に、産官学に広範囲のご活躍ぶりを羨ましく拝見しています。比べて第一期生はこの数奇な体験が消えることはありません。今後も会員皆様、事務局皆様のご健勝と当会の益々のご発展を祈念してご挨拶に代えます。

おかげ様で



京都支部相談役
岡野益巳
昭和四十七年卒

この度の春の叙勲に際しまして、旭日小授章を拝受いたしました。丁度、土木工学科を卒業後、四十五年目の節目に当たり同級生の皆から大変な祝福を受けました。私は卒業以来、ただ当り前の事を当り前にひたすら建設業一筋に歩んで参りましたが、その節々には立命館大学建設会の諸先輩から温かいご指導や励ましを頂き、又、大勢の同級生や後輩の熱い友情のお蔭で、今日まで業界発展のために微力ながら活動してこられたと感謝をしています。九年前の平成二十年五月に一般社団法人 京都府建設業協会の会長に就任し、本年度十年目になります。京都府内には南から北迄、十二支部が存在しており、会員企業は二十年前には約五百社、十年前には約三百社ありましたが、現在では二百二十六社に減少しております。

会員企業の減少の原因が最近では倒産ではなく、京都府内の事業量が非常に減少し、事業規模を縮小して細々と継続している会社が多くなり、協会を脱退するからです。特に土木工事業者が非常に厳しい経営環境に直面しています。国交省の一部の方々はこの状況を大変心配されており、このままでは京都府内、京都市内の安心安全が守れるのか?心配をされているのも事実で、少なくとも土木業者について行政が責任をもって育成していかねばならないと思いますが、現実には理解されているとは言い難い状況です。又、職務として各地域のブロック会議、それに付随した各種の会議や陳情活動等を行っています。この活動を通して何よりも全国各地の状況に接する機会が多くなったことで、今後の建設業が進むべき方向性と、それに関する多方面に亘る問題解決策など多くの事を学ばせていただきながら、その実現に向け真摯に取り組んでおります。現在、健康で元気に自分の能力以上の活動をさせて頂けるのも、周りの多くの方々にお支え頂いているお蔭だと改めて思うと共に、昨年より立命館大学 京都校友会の会長、今年四月より立命館大学 校友会副会長にも就任させて頂きましたので、少しでも皆様方のお役に立てられるよう心を引き締めさせていただきます。

長良川の鵜飼は、毎年五月十一日から十月十五日まで、中秋の名月と増水時を除く毎夜行われます。場所は岐阜市の中心市街地の北にある長良橋の上流、JR岐阜駅からバスで約十分のところで開催され、毎年十万人を超える乗船客があります。乗船場近くの岐阜公園からはロープウェイで金華山頂上にある岐阜城まで上ることが出来、山頂からは濃尾平野を一望することが出来ます。そこは司馬遼太郎の代表作「国盗り物語」で齊藤道三、織田信長が活躍した舞台でもあり、岐阜市の主な観光名所が徒歩圏内に散在します。乗合船の乗船料金は休日 大人三千四百円から、食べ物・飲み物は各自の持ち込みとなります。弁当・飲み物付の「おまかせパック」大人五千円などもあります。詳しくはホームページをご覧ください。その歴史は古く約千三百年前からと言われています。そのうち宮内庁の御料場で行われる八回の鵜飼は「御料鵜飼」と呼ばれ、獲れた鮎は皇居へ献上されます。長良川の鵜飼いは日本で唯一皇室御用の鵜飼いで、鵜匠は職名を宮内庁式部職鵜匠と呼ばれ、使用する用具

長良川の鵜飼



岐阜県建設会副会長
大久保清之
昭和五十三年卒

は国の重要有形民俗文化財となっています。平成二十七年三月には「長良川の鵜飼漁の技術」が国の重要無形民俗文化財に指定され、同年十二月には「清流長良川の鮎」が世界農業遺産として登録されました。地元の岐阜市では、ユネスコ無形文化遺産に登録するための取り組みを行ってきていますので、これらの指定が大きな弾みになり、知名度もさらに高まるものと期待されています。「灯台下暗し」と言いますが、身近にあると「いつでも行ける。いつでも見られる。」と思ってしまう、なかなか接する機会がないもののようにです。岐阜市生まれの私の周りにも「一度も鵜飼い船に乗ったことがない。」という人が結構います。私自身は地元で育ち六名の鵜匠のうち二名は中・高の同級生で、毎年九月には貸切船で同窓会を開催しています。岐阜県民として、わが県の認知度・魅力度ランキングの低さにはかねてから納得のいかない気持ちにくすぶらせている私ですが、郷土の誇れる財産として校友のみなさまに是非ご紹介したい気持ちで筆を取らせていただきました。お近くにお越しの際には



是非お立ち寄りいただき、観覧されればきっとみなさんの心に残る思い出になることと思います。

建立会の持続進化



建立会副会長
向井一裕
昭和五十八年卒

皆さんは、マンホールカードはご存知でしょうか？マンホールカードは、下水道のPRを目的として、GKP(下水道広報プラットホーム)が全国の自治体へ向け参加を呼び掛けたもので、私の勤める堺市でも作成されています。全国には、マンホールなる人種が意外と多く、旅先でマンホールの写真を集めるのを趣味としている方もおられます。私の職場では、ゴールデンウィークの沖縄旅行の際に下水処理場を訪ね、那覇市のマンホールカードをゲットしてきたと息巻いている者もいます。本年四月三日時点では、全国で百五十一自治体百七十種類のカードが発行されており、中にはレアなカードもあるとのこと。ご興味のあ

る方は、是非マンホールカードで検索して配布している自治体等を訪れてみてはいかがでしょう。ちなみに堺市では、さかい利品の杜(堺市文化観光拠点)一階受付で配布しており、当施設では堺が生んだ茶の湯の大成者「千利休」と、日本近代文学を切り拓いた歌人「与謝野晶子」の生涯や人物像などを紹介していますので、ご興味のある方はぜひお越しください。



さて、建立会は、平成二十八年第四十四回総会におきまして、長井新会長を迎えるとともに、私をはじめ幹事等の役員改選がございました。その際、建立会の持続進化へ向け、中堅社員を中心とした多くの人達に幹事をお願いし、今後の建立会活動について議論(私の出席率は悪いので恐縮ですが)することとしました。特に、年一度の総会への参加者の増員や若手メンバーが参加できる仕組みについていろいろ模索しています。

今年一月に行われた建立会第四十五回総会では、幹事を多くした甲斐あって、昨年より約三十人多い百四十二名の方に参加していただきました。一方で、総会後の反省会では、初参加者へのフォローができていたのか等の反省点も見受けられたとの意見もあり、更なる建立会の進化へ向けた取り組みを進めています。

また、長い伝統のある建立会では、これまで一月の土曜日の午後に総会を実施しておりましたが、次回(第四十六回)総会は、更にたくさんの方々に参加を促すべく、八月末の金曜日夜に開催することとしました。そのため、来年八月末の金曜日夜に開催する次期総会の一年前のプレイベントとして、今年八月二十五日に「建立会暑気払いの会」を開催する予定です。今後、幹事を通じ対象の方々へはご連絡差し上げますので、多数のご参加をお待ちしています。

三十年代で川になり、四十代で急に早くなった流れは、五十代では激流、六十代では滝のごとし」と言った方がいるそうです。まさに、このたとえを実感している今日この頃です。

これまで私は札幌市役所で、道路事業の業務を主に携わってききましたが、ここでは、前任で担当していた「路面電車の環状化(ループ化)」について、札幌市電のPRも兼ねてご報告したいと思います。

札幌市の街に路面電車が走り始めてから今年で九十九年になります。最盛期に二十五kmあった営業路線は、市営地下鉄の開業により多くが廃線となりました。ループ化される前の営業路線は八・五km。全盛期の約三分の一に縮小されましたが、多くの大都市が路面電車を廃止する中で、札幌市電は「地域の重要な交通機関」「札幌の大切なシンボル」として、存続させてきました。

一昨年、その市電に新しい営業路線が開業され、四十二年ぶりのループ化を実現することができました。この開業により伸びたレールは約四〇〇m。「西四丁目」と「すすきの」を結ぶわずかな距離ですが、「駅前通り」という札幌のメインストリートをとことこ走る市電の姿は、札幌の新たな景観となりました。また大都市の繁華街では、日本ですべて初めて路面電車が歩道寄りを行く「サイドリザーベーション方式」を採用しております。街路樹の下を走る市電は他都市にない景観です。

札幌市の路面電車



北海道支部
山形文孝
昭和五十九年卒

札幌市役所に勤めて三十年余りの月日が経ちました。時間の流れの速さを「川の流れ」にたとえて、二十代はちよろちよろ流れる小川、

い。そして市電に乗り、のんびりと車窓を眺め楽しんでいただければと思います。

広島 建設会定期総会



広島県支部代表幹事
福馬啓人
昭和六十一年卒

今年の広島県支部定期総会は、第五十回という節目を迎え、六月二十四日(土)、小林泰三先生(地盤工学)を迎えて、ホテルメルパルク広島で開催されました(執筆時点では未開催ですが…)。

今回は、株式会社オリエンタルコンサルタンツ代表取締役社長の野崎秀則様(五十七卒)をお招きし、ご講演をしていただけることになっております。昨年は四十九名の方がお集まりいただき、例年以上の盛会となりましたが、今年は今ところ三十六名の予定。案内時期の遅さや声掛けの不十分さなど、反省課題も多くありますが、広島県支部建設会も高齢化が進み、世代交代の難しさに頭を悩ませています。

日建連では「担い手確保」の施策の一つとして、「働き方改革」を政府と一体となって主導しています。そのため社内でも、連日会議・資料作り・アンケート調査…愚痴ではありませんが、厳しい時代ですね。我が社も「とにかく四週八閉所にチャレンジする」との号令一下、まず走り出しました。

ところで、「担い手確保」の一翼ではありませんが、女性の社会進出は、ある意味「働き方改革」というか、革新的な出来事になっていきますね。「ドボジョ」って結構素晴らしいですよ(日建連流には全ての従事者を対象に「けんせつ小町」でしょうが)。工事現場で作業員への指示など、結構大変だろうと思っ

個人差は当然でしょうが、私の良く知る「ドボジョ」は、厳しく指示するのではなく、「ねちねち」とお願いする方法でちゃんと目的を達成しています。基本的にまじめで優秀で、全部抱え込まずに、オーパーフォローしそうなところが、女性の特権(というところ怒られますが)で、開き直って「出来ません」って、でもそれって、組織としては大切なことですね…また、女性を苛めちゃいけないということ、別の対策を皆で考えることに繋がりますから。

建設会にも女性の参加・参画が増えてくれば、もっと活性化するのでしょうが…女性の社会進出、大賛成です。

着任のご挨拶



環境システム
工学科 教授
惣田 訓

今春から環境システム工学科の環境工学研究室の教授として着任しました惣田訓です。難分解性有機物や金属類の除去と回収を目的とした生物学的廃水処理プロセスを研究しています。

私は、大阪大学大学院工学研究科環境工学専攻において「活性汚泥に導入された遺伝子組み換え菌の挙動」をテーマとして一九九九年に博士号を取得しました。博士後期課程の在籍中には、ドイツのザールランド大学において二ヶ月と短いながらも、数理モデルを用いた研究方法も学びました。その後、大学院重点化によって新設された大阪大学の地球総合工学専攻の地球循環共生工学領域の助手になりました。実験系の研究を主にしていました。環境共生型まちづくりをテーマとした計画系の研究にもチャレンジしました。当時

この専攻は、土木工学、建築工学、

船舶海洋工学、環境工学の四専攻から派生する研究室で構成されており、教育や組織運営の方針をめぐって教員同士の議論が白熱し、新任の私にはとても刺激的でした。

二〇〇五年からは、国際交流室留学生相談部の兼任講師となり、日韓共同理工学学部留學生プログラムの開発などに従事しました。ベトナムの留學生・研究者との交流も活発になり、ハノイやホーチミンに訪問する機会も多くなりました。

二〇〇八年には、環境・エネルギー工学専攻の生物圏環境工学領域の准教授になりました。この専攻は、環境工学と量子エネルギー工学の研究室群で構成されており、教育や組織運営の方針の違いにま

た。立命館大学では、科学・工学に加え、環境問題の社会的背景も含めた教育を行い、水環境に関する高い知識と技術を有する人材の育成を目指します。私が学生の頃と比べ、技術の進歩は目覚ましく、社会情勢も大きく変化し、国内ならば災害対策・復興や人口減少、国際的には気候変動やアジアにおける技術貢献がさらに重要になります。これらをキーワードとした

将来ビジョンを持ち、国内外で活

躍できる人材を水処理メーカー、ゼネコン、コンサルタント、省庁、自治体など、多様な分野に輩出できるように努力してまいります。

着任の挨拶



建築都市デザイン
学科 准教授
李 明香

この春より建築都市デザイン学科に着任いたしました李明香と申します。

専門は建築環境・設備です。現在、省エネルギーと快適をキーワードとして、建築のエネルギー性能や在室者の快適性向上に係る研究を行っています。主なテーマは、自然エネルギーを利用したパッシブ／アクティブ建築の提案、高性能建築の省エネルギー評価、人体生理・心理を考慮した温冷感評価指標の作成、在室者の快適性を考慮した空調設計などです。

地球温暖化やエネルギー資源の枯渇問題が非常に重要な課題となっており、省エネルギーを目的として建築は断熱気密され、空調設定温度は緩和されるなどの対策を講じています。一方で、健康や快適性への関心も高まっていることから、エネルギーを極力使わずに居住性能を向上させることが求められています。そこで、私は、建築と人(生活者)を研究の対象とすることで、省エネルギーかつ健康・快適な建築環境空間を模索しています。建築の形状や仕様などの工夫により、室内環境を快適にするということにも挑戦してまいります。

私は、二〇一四年に京都府立大学大学院生命環境科学研究科博士後期課程を修了しました。在学中には尾崎明仁教授(現・九州大学教授)のもとで建築環境・物理学について学びました。建築の熱・水

分の移動現象、人体に係る伝熱現象について熱心にご指導いただき、現在の研究の基盤を築くことができました。この場をお借りして御礼申し上げます。

卒業後二年間は立命館グローバルイノベーション研究機構(RIGIRO)で専門研究員(受入教員・建築都市デザイン学科 近本智行教授)を務めました。学部・大学院時代から一変して、新しい環境となり、少し戸惑いながらもとても新鮮な気持ちでこの立命館大学びわこくさつキャンパスに通ったことを覚えています。また、立命館大学の教職員の皆さまの熱意ある教育とそのサポート体制、学生たちの活気溢れる姿を目の当たりにしてとても刺激を受けました。

その後、九州大学大学院人間環境学研究院で助教として着任いたしました。在籍中には自然換気システムや太陽熱利用浴室乾燥システムなどの自然エネルギーを利用するプロジェクトや、住宅の断熱改修や空調設備の最適配置などの居住性能に係る研究を行いました。これらの研究を通じて、研究を行う目的の先には生活者がいるということに再認識し、人(生活者)についてより深く理解することが、健康・快適・省エネルギーな建築につながることを実感しました。この度ご縁あって、立命館大学に戻ってくることで、とても喜びを感じています。これからの様々な活動の中で、学生と教職員の皆さまとのコミュニケーションを大事にして、一つでも多くのことを学び合いなから、私個人のみならず、本学部ならびに本学の成長に微力ながら貢献できるよう、まい進する所存です。今後ともどうぞよろしくお願いたします。

立命館大学技術士会の活動報告とお願い

立命館大学技術士会は、平成21(2009)年12月に建設部門の技術士を中心に設立され、約半数が平成卒業生である19名の幹事により運営し、現在の会員数は約160名となっています。

【技術士会 現在までの活動報告】

- 立命館大学理工学部卒業生への技術士受験支援を行い、建設部門、上下水道部門、機械部門、総合技術監理部門に30名を超える技術士を輩出。
- 大学の科学技術教育活動に協力し、理工学部特殊講義および理工学研究科授業への講師派遣や環境都市系学科の授業を活用しての技術士懇談会を開催。
- 『土木!この素敵な世界』をテーマとした電子書籍をAmazon Kindleストアで好評発売中。立命卒土木技術者達の力作です。ぜひ読んでみてください。

【今後の活動について】

★同窓の技術士および技術士資格にチャレンジされる方は、当会へご連絡ください。

① 技術士ネットワークの拡大と同窓・後輩支援としての情報発信

現在、大学支援として、『JABEE制度とめざせ技術士』『技術士の職務と役割』を環境システム工学科、都市システム工学科の授業等を活用して実施しています。また、学生達を支援できるような技術講演会も、建設会と連携して実施したいと考えています。

② 技術士資格挑戦者への支援として、毎年3月より受験申込書の記載方法から筆記試験対策の講習会を4回、11月には口頭模擬試験を実施しており、どの時点からでも参加可能で、参加費用は各回1,000円です。

★当技術士会の活動に、ご協力いただくためにも技術士資格取得者の方々には、当会に技術士資格情報をお知らせ願いたいと思います。(当会への入会は問いません。)

★今年度から会員相互の交流の一環として、会報誌をリニューアルする予定です。当面の発行は年1回10月頃を予定しており、会員相互のコミュニケーションツールとして、また会員技術士の論文発表の場として活用したいと考えています。

★当技術士会の目的に賛同いただき入会をご希望の方は、ご連絡をお待ちしております。みなさんと一緒に、技術者の地位向上と社会への貢献に微力ながら前進させたいと願っております。



技術士による大学での講義の様子

平成29(2017)年6月 立命館大学技術士会幹事会

事務局連絡先：企画・窓口担当 E-Mail：rits.kikaku.mado@gmail.com 技術士会ホームページ (<http://alumni.ritsumei.jp/gijutsusikai/>)

事務局より

お知らせ

▶名簿お取扱いについて

名簿は、会員の皆様の大切な個人情報に掲載しております。名簿をお持ちの会員様は、その保管およびお取扱いには十分ご注意くださいようお願い致します(転売厳禁)。

なお、ご不要になった名簿につきましては、お手数ですが焼却あるいはシュレッダー処分をしていただけますようお願い致します。

▶建設会HPのリニューアルについて

この度、立命館大学建設会のオフィシャルウェブサイトを全面的に改修いたしました。ウェブサイト上で登録情報の変更ができるようになった他、最新のニュースや会員の活動紹介なども随時、掲載していく予定です。是非、ご覧ください。 URL <http://ritsumei-kensetsukai.net>

■会員登録データ

立命館建設会会員の皆様の名簿を隔年発行しておりますが、そのもとになるデータベースは、皆様からのお申し出に応じて適宜更新しております。このデータベースは、年会報の送付、総会などの各種案内、また、各支部からの連絡、会費請求の事務などに利用しております。

今回送付いたしました年会報に同封されている「会員登録データ」をご確認いただき、修正や変更がございましたら建設会事務局までご連絡下さい。

また、「平成28年度会員名簿[CD-R版](2016.12発行)」は、対象年度の会費を納入いただいている会員(2年に一度の発行ですので、平成27年・28年度分の会費納入者ならびに終身会員)に送付させていただきました。平成28年度分の会費をまだお納めでない方は、同封の振込用紙にて2年分の会費(平成28・29年度分：6,000円)を納入いただきますと、入金確認が出来次第、名簿をお送り致します。

■建設会年会費ご納入のお願い

立命館大学建設会は皆様の年会費で運営されています。

平成29年度会費のご納入をお願い致します(年会費：3,000円)。

また、会費ご納入につきましては「郵便局の自動振替システム」をご利用いただくこともできます。お気軽に建設会事務局までお問い合わせ下さい。

なお、銀行からのお振込も可能です(ゆうちょ銀行109(イチゼロキユウ)支店、当座0000884)。お振込の際、お手数ですがお名前の前に10桁の会員コードをご記入いただくか、お名前・会員コード・お振込日を下記アドレスまでご連絡下さい(振込手数料は申し訳ございませんが、ご負担願います)。

※なお、8月11日～21日まで、大学一斉休暇となります。

何とぞご了承下さい。

建設会事務局

〒525-8577 滋賀県草津市野路東1-1-1
立命館大学理工学部環境都市系事務室内(担当：山元)
TEL: 077-561-4911 FAX: 077-561-2667

<http://ritsumei-kensetsukai.net> (新しくなりました)
E-mail: kenstkai@st.ritsumei.ac.jp
会費払込郵便振替口座: 02 大阪 01080-1-884